

## 第 1 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず

いつも静かに笑っている。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず

いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいとい  
い。

## 第2章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい

日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに

よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている。

## 第3章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり

西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ

丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば

行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ

丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり

西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と。

## 第 4 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず

苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し。

雨にも負けず  
風にも負けず

雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ

丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり

西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず。

## 第 5 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず

苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず

いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ

丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている

一日に玄米四合と。  
雨にも負けず  
風にも負けず

雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち。

## 第6章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず

いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず

そういうものに。  
雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい。  
雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに

よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり

西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい

日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ。

## 第 7 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち

慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ

丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば。

## 第 8 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている。  
  
雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい

北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを。

## 第 9 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている

一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の

小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい

北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ

丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ

あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず。

## 第 10 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて

東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている。  
  
雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず。



雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず

いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり

西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き。

## 第 11 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず

野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ

丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と

味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず

野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば。

## 第 12 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく

決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と

味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば

行ってその稲の束を負い。

## 第 13 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ

褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず

野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく

決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と

味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず

野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い。

## 第 14 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを

自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば

行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば

いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく

## 第 15 章

行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく

決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き。

決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている

一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい

北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と。

## 第 16 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず

苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と

味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず

いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の

小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり。  
  
雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち

慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを。

## 第 17 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず

苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。  
  
雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを。

雨にも負けず  
風にも負けず

雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ。

## 第 18 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず。  
  
雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い

南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいとい  
い。

## 第 19 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを

自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば

行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と

味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている

一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば。

## 第 20 章

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり  
そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し

寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
わたしはなりたい。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり

そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば  
行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ  
褒められもせず  
苦にもされず。

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている



一日に玄米四合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり

そして忘れず  
野原の松の林の陰の  
小さな萱ぶきの小屋にいて。  
  
雨にも負けず

風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫なからだをもち  
慾はなく。